富士山剣ヶ峰における風の観測及び風速計の特性調査

安部大介[1]　大塚靖子[1]　吉田一成[1]　鴨川仁[2]
1. 株式会社ウェザーニューズ，2. 静岡県立大学

１．はじめに

富士山の剣ヶ峰に設置した観測機で風速・風向を観測し、風速計の特性を調査した。2 種類の観測機（試作機 wni02、Vaisala 社製の観測機）で計測した観測データを、近隣のウィンドプロファイラ（河口湖・静岡）の観測値から推定した剣ヶ峰の風速と比較した。ここでウィンドプロファイラ（河口湖、静岡）を用いた山頂の風速の推定においては、ウィンドプロファイラの観測高度の中で、富士山の山頂に最も近い高度で観測された風速データとアメダス（剣ヶ峰）で観測された風速の相関から剣ヶ峰の風速を推定するための関係式を作成し、ウィンドプロファイラの風速から剣ヶ峰の風速の推定値を計算した。

２．結果

風向が約 170°から 210°の時、wni02、Vaisala 社製の観測機ともに風速の観測値は近隣のウィンドプロファイラのデータから推定した風速の値よりかなり小さくなった。今回の調査結果から、観測機器の設置環境や地形の影響によって強風を十分に観測できないケースがあることが分かった。

３．おわりに

できるだけ実際の風速に近い値で剣ヶ峰の風速の観測データを得るために、来シーズンは機器の設置環境ならびに斜面を吹き上がる風の鉛直成分も考慮した上で、観測方法及びデータの補正方法を検証していきたい。

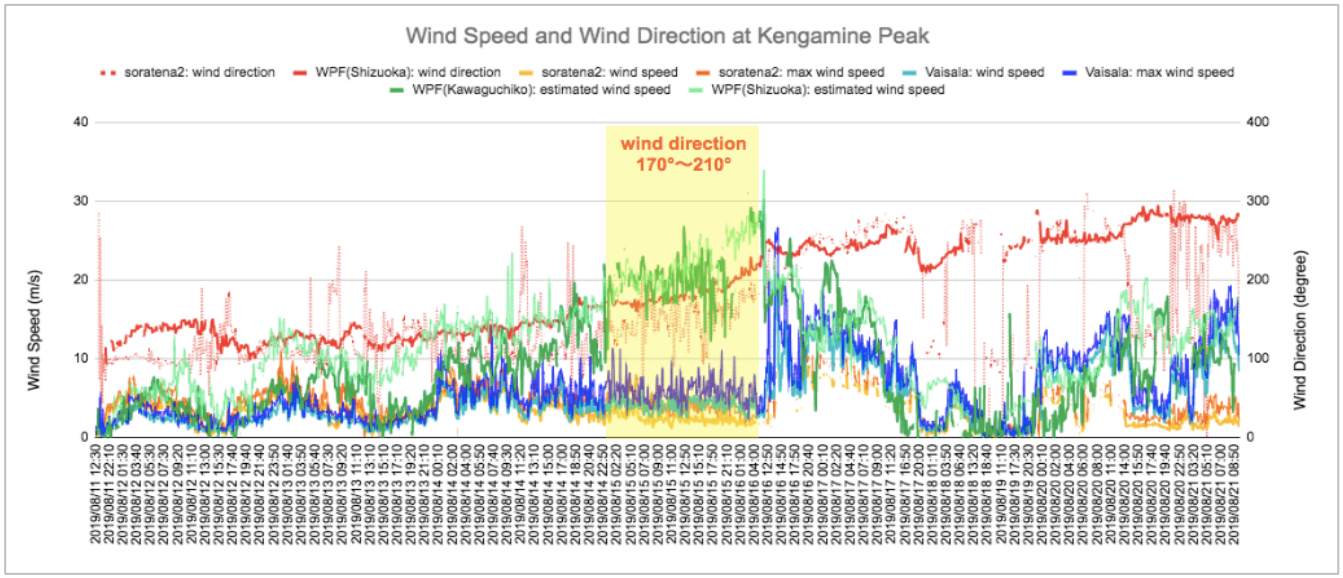

図 1. 富士山（剣ヶ峰）で観測した風速・風向および。ウィンドプロファイラーの観測データから計算した山頂の風速の推定値

連絡先：剣峰太郎（Minetaro KEN）　tyo-ofc@npofuji3776.org

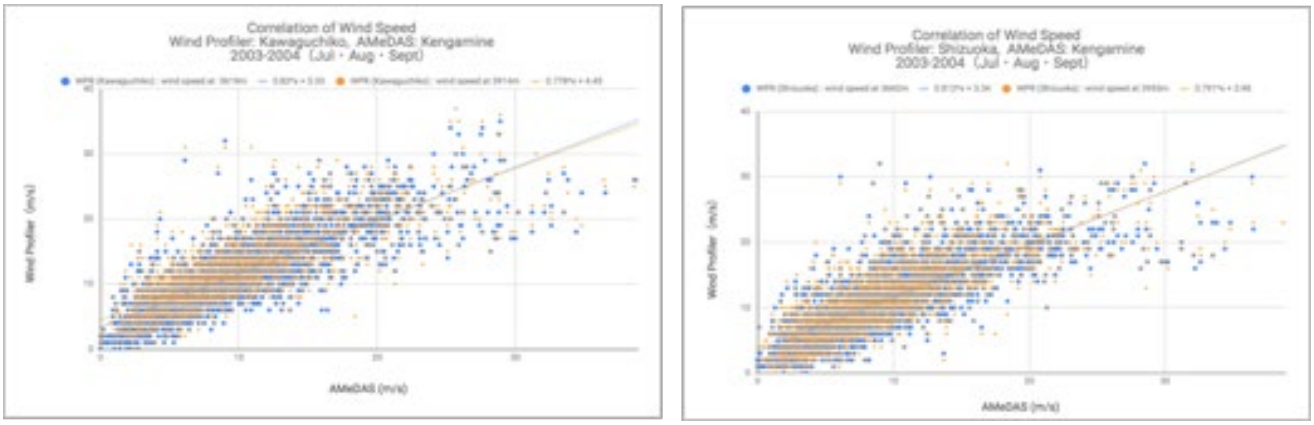

図 2. アメダス(剣ヶ峰)とウィンドプロファイラの風速の相関(左:河口湖、右:静岡)。
期間:2003 年～2004 年(7 月 1 日～9 月 30 日)。